



豊中市  
人権教育推進委員協議会  
機関紙 編集部会  
事務局 6858-2580  
(豊中市教育委員会事務局  
人権教育課内)



平成28年度(2016年度)人権作品 刀根山小学校 6年 川崎 千鶴

## 巻頭言 教育機会確保法の成立

副会長 那須 厚郎

〇〇〇大賞、年間 ××× ランキング、と騒いでいた、去年の12月、不登校の児童生徒を国や自治体が支援することを明記した“義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律”(教育機会確保法)が参院本会議で可決、成立した。

同法は不登校児童生徒の定義を、相当の期間、学校を欠席しており、集団生活に関する心理的負担等により就学が困難である状況とした。

基本理念として、不登校児童生徒、個々の状況に応じた支援が行われること。安心して教育を十分に受けられるよう、学校における環境の整備が図られること。個々の意思を十分に尊重しつつ年齢、国籍その他の事情にかかわらず、能力に応じた教育を受ける機会が確保され、教育水準の維持向上が図られ

ること。国、地方公共団体および民間団体等の相互の密接な連携の下に行われること等を定めている。

基本指針及びその他の各章では、国、地方公共団体は、不登校児童生徒が学校以外の学習状況、心身の状況等を継続的に把握する措置を講ずること。国、地方公共団体は、不登校児童生徒の多様な学習活動の重要性に鑑み、休養の必要性を踏まえ、不登校児童生徒や保護者への情報提供、助言等の支援に必要な措置を講ずること。地方公共団体は小中学校に通うことができなかった人に、夜間その他特別な時間において授業を行う学校(夜間中学校)等における就学の機会の提供等の措置を講ずること。施行後3年以内に見直しを含めた必要な措置を講ずること、等が定められた。

本法の施行により不登校児童生徒および過去不登校児童生徒であった人への支援拡充を期待し、多くの方が救われることを願います。



## 平成 28 年度 (2016 年度) 「人権教育をすすめる市民の集い」を終えて

11 月 11 日 (金) 「市民の集い」が開催されました。

意見発表…「子どものことを考えるスライド絵本の取り組み」 十八中校区のみなさん

「人権に関する取り組みについて」 箕面自由学園高等学校 田中 昭男 さん

記念講演…テーマ 「ひと」らしく生きるために

～差別やいじめの仕組みを考える～

講演者 江嶋 修作 さん (解放社会学研究所 所長、NGO・横浜国際人権センター理事)



### ■ 記念講演に寄せて・・・

江嶋修作さんは、結婚差別事例をあげられ、差別することの怖さ、差別する者たちの醜さ、差別と闘う者たちの輝きを力強く語られました。「差別 (いじめ) が起きるメカニズムは、劣等感や嫉妬心、欲求不満を解消するためにそれを誰かに投げつける結果、そこに差別 (いじめ) が起きる。だから、差別 (いじめ) は醜くいやらしい、そしていじましく、汚く哀れな行為なのだよ！」そう語られます。理由も根拠もないのに、いまだ根強く残る差別意識や差別の不当性について、指弾されました。お話し冒頭に「一番大事なことは、伝えたいと思うメッセージは、伝わってこそナンボやで！」と挑発されましたが、次々と紹介される事例が実に物語風にテンポよく展開され、いつの間にか語りの向こう側の情景に巻き込まれてしまいました。江嶋さんのそのお話ぶりの一つを紹介することで、「ひと」として自らの生き方を考える一助となったお得感をこの紙面をとおしてお伝えできたらと思います。

「(一部要約) みなさんがここに、こうやって、座っておられるということは、必ず、どこかにお父さん、お母さんがいらっしゃったということですよ。一人の男と一人の女がいて、「父ちゃんと母ちゃん」がいたから、僕らがいたわけですよ。父ちゃんが存在するためには、父ちゃんには「父ちゃんの父ちゃん」と「父ちゃんの母ちゃん」がいたわけですよ。不思議ですよ。僕がこうやって生きているためには、3 代前 8 人のじい

ちゃんばあちゃんの一人でも欠けたら僕ここにいないんです。26 代前、奈良時代前期ぐらい。何人必要だと思いますか。ざっと見積もって 5 千万人のじいちゃん 5 千万人のばあちゃん、併せて 1 億。正確に言うと 6 千何百何十万人になる。27 代前には 1 億 3 千万人ぐらい。奈良時代前期に 1 億のじいちゃんばあちゃんがいなくて、僕、ここにいないんですよ。奈良時代前期の日本列島の人口、わかりますか？ だいたい 300 万人。にもかかわらず、僕がここにこうやって生きているためには、1 億のじいちゃんばあちゃんが必要なのです。どういうこと？ 計算があわない。(会場の一人に、住所を聞いて) あなたと僕は距離的に離れているように見えるでしょ。だけど、もしあなたと僕とが血縁関係が全く無かったら、あなただけで奈良時代前期に 1 億、僕も 1 億、合わせると 2 億必要ですよ。計算があわん！ だって当時 300 万しかいないんです。どういうことですか？ あなたと僕は血縁関係、必ず繋がっているということです。ここにいらっしゃる方のだいたい 6 代か 7 代遡ってみたら、みんな僕の血縁関係！ 「同和地区だということになっているところ」に生まれ育った人と、「同和地区じゃないことになっているところ」で生まれ育った人、血縁関係のない人っていますか？ 冗談じゃないよ！ これが部落差別！」

(文責:副会長 青木 康二)

### 参加者の声。。

○人権の話で笑えるなんて…ユーモアの中にも大切なことが散りばめられていたと思います。

○他校の取り組みを知ることができて良かったです。

子どもの気持ちに寄り添うことって大切なことだと思いました。

○今日参加して、分かっているつもりでも一度立ち止まって考えてみるのが大事だと思いました。

# 意★見★発★表★ 要旨



## 子どものことを考える学習会

### スライド絵本の取り組み

十八中校区「子育て・ふれあいの会」では、「人権と共生」をテーマに子育て・子育てに取り組んでおり、校区人権協もその活動の一端を担っています。活動の一つに「子どものことを考える学習会・スライド絵本の取り組み」があり、その時々社会問題や子どもの実態から学習し、交流を深め、絵本を通して子どもたちへ思いを伝えています。

今回の市民の集いでは、これまでに取り組んだスライド絵本「コブタの気持ちもわかってよ」を発表しました。聞いてもらえないことで気持ちが出せなくなっていくコブタの姿を通して、私たち大人自身が子どもの頃の自分と出会い直し、子どもたちの本当の気持ちに気づくことができました。

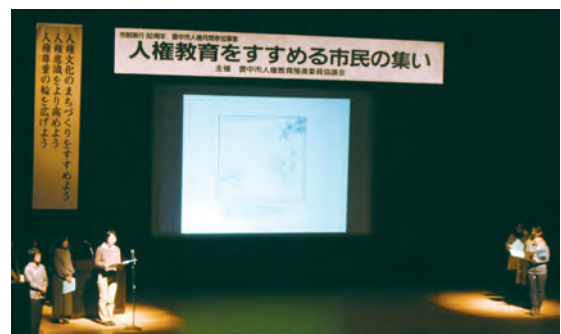
取り組みを通じて、気づき感じたことを子どもたちに返し、私たち大人が本当の気持ちを出し合える関係

### 発表者：十八中校区のみなさん

を作っていくことが、子どもたちに、人とつながる力をつけていくことになると思います。

大人も子どもも本当の気持ちを伝え合えるあたたかいつながりが地域に広がっていくことを願い、今後も取り組んでいきたいと思っています。

(要約 十八中校区常任委員 有馬 佳代)



## 人権に関する取り組みについて

### 発表者：箕面自由学園高等学校 田中 昭男さん



学校名に箕面自由学園とありますが、実際には豊中市宮山町に、幼・小・中・高と本部があります。

上質な学校をめざし、本部の人権教育の取り組み

について事例を3つ紹介させていただきます。

①インターネットへの誹謗中傷書き込みへの対応  
いじめの問題をはじめとしてさまざまな人権教育、最近増えている、インターネット上でのいじめ、スマホやラインでのいじめの防止について、携帯電話会社から専門講師を招くなどして、授業や生徒指導などでも積極的に、安全・安心・快適な環境づくり、人権侵害や名誉毀損、風評被害に対する防止、抑止対策、具体的には、インターネットパトロールの専門会社と業務

委託契約し、生徒と教職員が被害にあった場合、弁護士を通し、法律に基づいて時間がかかっても対応しています。

#### ②ハラスメントの防止

一番大切なことは、大きな事件、事故が起こる前に、年齢などに関係なく素直に認め改める。そんなつもりじゃなかった、知らなかったでは通用しません。一人で判断せず、記録を残して下さい。ガイドラインを作成周知し窓口を設置しています。

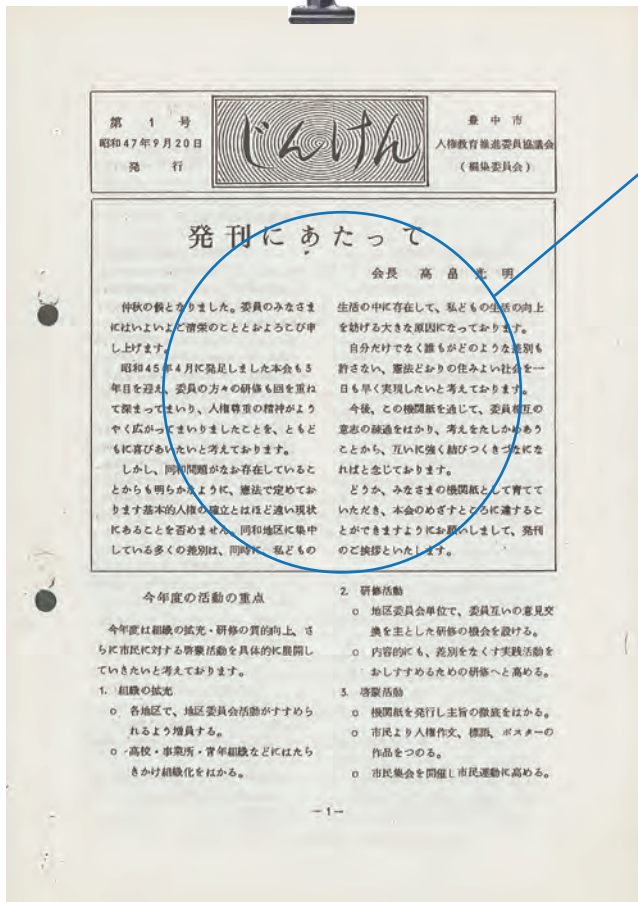
#### ③登下校指導・マナーをわきまえた行動

ルール・マナーを守ることは、相手に配慮し迷惑をかけること、人を大切にできる心、人権という言葉を使わなくてもわかるように指導しています。

(要約 高校代表委員 矢澤 美代子)

豊中市人権協は「市民の人権感覚の育成と、人権が大切にされた市民社会の実現」をめざし、さまざまな人権啓発に取り組んでおりますが、自主的の市民団体として、自らの財源確保も大事なことと考え、昨年度にひきつづき「人権教育をすすめる市民の集い」においてご参加の皆様へに支援金をお願いいたしましたところ28,945円の支援金をお寄せいただきました。皆様の貴重な支援金は今後の人権協の活動に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

創刊時の想いを未来へつなぐ



発刊にあたって

会長 高島 光明

中秋の候となりました。委員のみなさまにはいよいよご清栄のこととおよろこび申し上げます。

昭和45年4月に発足しました本会も3年目を迎え、委員の方々の研修も回を重ねて深まってまいり、人権尊重の精神がようやく広がってまいりましたことを、ともしどもに喜びあいたいと考えております。

しかし、同和問題がなお存在していることから明らかに、憲法で定められています基本的人権の確立とはほど遠い現状にあることを否認しません。同和地区に集中している多くの差別は、同時に、私どもの生

活の中に存在して、私どもの生活の向上を妨げる大きな原因になっております。

自分だけでなく誰もがどのような差別も許さない、憲法どおりの住みよい社会を一日も早く実現したいと考えております。

今後、この機関紙を通じて、委員相互の意思の疎通をはかり、考えをたしかめあうことから、互いに強く結びつくきづなになればと念じております。

どうか、みなさまの機関紙として育てていただき、本会のめざすところに達することができますようお願いしまして、発刊のご挨拶といたします。

やさしさの種をとどけよう

↑ 機関紙 第1号  
昭和47年(1972年)9月20日発行  
人権協が結成された二年後に創刊号が発行されました。

人権の輪を広げよう!

機関紙が初めて発行された年に、地区委員会単位の研修や高校部会、人権作品募集がスタートしました。



号外が発行されることもあり、当時機関紙は年に4回発行されていました。



思いやりの心を発信しつづけて...



↑ 機関紙 第3号  
昭和48年(1973年)2月3日発行  
人権応募作品「たった一枚のピラだけど」の詩がシンボルソングとして市民の集いで歌われました。

# 写真で振り返る機関紙



地区活動の充実と  
研修を深めるために

## 活動の重点目標から導かれる課題

### 52年度活動の重点目標

- ・人権意識をより高めよう。
- ・委員自ら人権問題についての学習をより深めよう。
- ・委員相互の学習を組織的・計画的にすすめよう。
- ・人権尊重の輪を広げよう。
- ・地域における人権教育推進の核になろう。
- ・地域における関係機関・団体との連携をより深めよう。

昭和52年(1977年)第22号  
地区活動…スローガンののはじまり

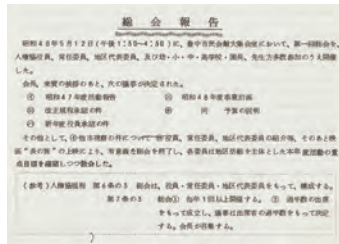
## 市民の集い



昭和59年(1984年)  
記念講演 俳優 植木 等



昭和61年(1986年)  
記念講演 作家 瀬戸内 寂聴



昭和48年(1973年)第5号  
第一回総会報告



平成5年(1993年)  
記念講演 歌手 さとう 宗幸



平成21年(2009年)  
記念講演 白井 のり子

## 研修講座は、気づきの場

「人権擁護都市」宣言要望署名  
市議会 請願を採択、『宣言』へ一歩

8万名突破



渋谷議長に請願書を手渡す村田会長(左)

昭和59年(1984年)第48号  
「人権擁護都市」宣言要望署名



街頭広報活動(庄内駅前)

昭和50年(1975年)第13号  
街頭広報活動(庄内駅前)



昭和62年(1987年)第61号  
基礎講座

(昭和52年(1977年)より基礎講座スタート)

多くの人の  
つながりに感謝

～現在の  
表紙になるまで～



表紙に挿絵がされるように…



表紙がカラー印刷されるように…



人権募集作品が表紙になりました



サイズが B5 から A4 へ

# 地区活動のページ

## 浪速少年院（十二中校区）

### 十二中校区 現地研修について

豊南地区推進委員 田中 房枝

11月はじめ、現地研修で、浪速少年院の見学に参加させていただきました。

施設は清潔で、更生に力を入れていることがうかがえました。

入院者数は、時代背景によってずいぶん変動しており、近年では詐欺の罪が増えてきていることを知りました。

また、入院者数の多くは、高校中退や、中卒者というデータ結果がでていること、入院者の詩を読む限りではありますが、家庭環境が複雑な人が多いことを感じ、そればかりではないとは思いますが、教育と環境の大切さを痛感しました。

そのため、院内では高卒認定の試験を受けることを勧めているようで、職業訓練もかなり実践的な指導が行われているようでした。更に、親子行事や季節行事などの心の育成にも力を入れており、その結果、80%以上が更生しているようで、少年院の必要性を改めて感じ、意義のある研修となりました。



## 大阪地方裁判所 (九・十三中校区)



## リバティおおさか (三中校区)



## 立命館大学国際平和ミュージアム (十一・十四・十五中校区)



### 平和を願う

十五中地区代表委員 河合 由紀子

街路樹の葉が赤く町を彩る11月15日、私たち十五中学校区は、15名で京都にあります立命館大学国際平和ミュージアムへ現地研修に行きました。

「平和をみつめて」と題した地下一階では、さまざまな展示物が当時の戦争の恐ろしさを物語っていました。1931年満州事変で、日本軍は、鉄道爆破を中国のしわざといつわって行動を起こし、中国東北部を占領しました。1945年8月15日、日本は敗北し、9月2日降伏文書に調印しました。この一五年戦争と呼ばれる戦争では、さまざまな毒ガスや兵器などが作られ使用されました。そして、アメリカ軍による広島原爆投下では約14万人、長崎原爆投下では約7万人もの人々が犠牲となったことを学びました。



私たちはこのようなことが約70年前、実際に現実に行われていたことを知り、二度と戦争を起こす世の中にしてはならないと一人ひとりが誓うことが大事だと思います。子どもたちや後世に、平和を願い続ける強い気持ちを発信していかなくてはならないと、私たちはこの日心に深く刻みました。

# 地区活動のページ

あっちこっち

見たり

聞いたり

学んだり

## 阿倍野防災センター（六・八中校区）



## 関西盲導犬センター（七・十六中校区）



## 岸和田（十七中校区）

### 岸和田地方を訪ねて

十七中校区では、現地研修として岸和田方面へ行きました。岸和田には、明治から昭和初期にかけて大きな紡績工場や煉瓦工場がありました。紡績工場では、多くは朝鮮から働きにきた女工さんが衛生環境の悪い合宿所などで生活しながら過酷な労働に従事しており、待遇改善を求める争議行為も起こったそうです。煉瓦工場は新島襄夫妻とも親交のあった山岡尹方が創設し、製造された煉瓦には社章の十字架の刻印がされており、同志社女子校清和館にもその煉瓦が使用されています。

紡績工場、煉瓦工場のどちらもが今では残っていませんが、貝塚の寺田紡績の工場（操業中なので外観のみ）と、岸和田の煉瓦工場のトロッコ道（材料の粘土を運んだ）跡を通り、煉瓦のモニュメントを見学しました。

地方ごとにそれぞれ異なる人権の歴史があることを学んだ研修でした。

十七中校区常任委員 加納 昌美



## 生野コリアタウン（一・二・四・五中校区）



## ピース大阪（十中校区）



※十八中校区は台風接近による警報発令のため残念ながら中止になりました。

駅頭啓発活動に参加して

12月10日は、国連第3回総会(1948年)において『世界人権宣言』が採択された日であり、今回は68回目の『世界人権デー』を迎えました。

豊中市では、毎年、広く市民に人権意識の普及、高揚をはかり、差別のない明るい町づくりを目的として、駅頭での啓発活動を行っています。

12月9日の穏やかに晴れた冬晴れの中、私は千里中央駅周辺での活動に参加しました。一人ひとりの人権が尊重され、お互いの人権を大切にする「人権文化のまち とよなか」を築きましょうとのメッセージが添えられたポケットティッシュを配布しました。通勤時間帯ではなかったものの、興味を持っていただけず、足早に通り過ぎる方もおられました。受け取って頂いた方の中には、「人権のですね」「ごくろうさま」とのお声をかけてくださる方もおられ、相手を思いやるふれあいに、心があたたまる瞬間がありました。

▶ 右から  
島田人権協会長  
浅利豊中市長  
大源教育長



阪急豊中駅にて

こうした活動を通して、たくさんの方に少しでも関心を持っていただき、「人権」がより身近で一人ひとりに寄り添った存在となるよう努めていきたいと思えます。

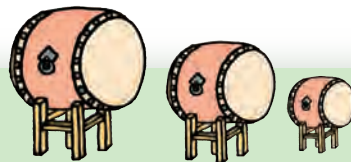
八中校区常任委員 西川 稔美

役員・常任委員現地研修

太鼓づくり＝命を紡ぐ

11月21日、姫路の太鼓屋六右衛門を訪ねました。十八代目杉本大士さんの講話、太鼓づくりの工程を聞きながら感動の連続でした。

十八代目という将来を約束された恵まれた家系に生まれたものの職業差別に悩まされ、小、中学校と荒んだ生活を過ごしました。牛の革を触る人というのは血の匂い、脂の匂い、動物的な独特な匂いがするし、きれいな仕事ではありませんが、家族のために働く父親を尊敬していました。職業差別の意識を持つ人が多い中、「いい仕事をしているな」「立派な仕事やね」と言ってくれる人もいました。今でこそ、自分の仕事に誇りを持っていますが、子どものことを考えると、自分と同じ経験をするのではないかと



副会長 高野 アヤ子

いう恐怖感があります。こうして話を聞きに来てくれる人が、間違った意識をもつことのないようお願いしたいと思います。

太鼓という楽器をつくるだけでなく、命を紡ぐ仕事だと感じました。午後からのフィールドワーク、威風堂々の姫路城もすばらしく圧巻でした。

今回の現地研修は、伝統ある文化芸術との出会いと、新しい発見の体験でした。



編集後記



「I have a pen・・・」とピコ太郎ブームになっています。You Tubeで「PPAP」の動画を配信してから、4ヶ月ほどで世界的に大ヒットしたネット社会の影響、情報拡散の速さに驚きます。今は多くの子どもたちもスマホを持ち、LINEなどいろいろなアプリを利用し使いこなしています。いじめや性的犯罪などネット社会の課題はありますが、マナーを守り利用したいと思えます。

さて、今年度最終の機関紙「じんけん」をお届けします。創刊号から節目の150号となりました。いかがですか？ご意見ご感想をお聞かせください。最後になりましたが、本号発行にあたりご執筆、ご投稿いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。

会計 若柳 玉貴